



神奈川大学剣友会会長

登坂重治

剣道と私のかかわり

剣道を始めたのは群馬県立旧制澁川中学校1年に入学した時からで、学校では当時正課でもあり、部活動として剣道を行っていました。しかし戦時中のことで、勤労動員に駆り出され、学業はほとんど出来ない状態でした。昭和20年8月終戦、剣道は出来ない状況で昭和23年横浜専門学校（現神奈川大学）に入学し3年で卒業。学生改革等の変遷を経て、昭和27年神奈川大学3年に編入学しました。

学内で撓競技が行われており、旧制中学校での剣道を思い出し、入部し競技を始めました。当時は道場もない状態ながら関東学生撓競技連盟7大学での第1回大会に参加させていただきました（『剣窓』平成22年5月号「学連剣道に学ぶ」尾上 護先生記事参照）。昭和28年12月国民体育館における第1回全日本学生剣道優勝大会に参加させていただきました。当時の学校の師範は若い頃、水戸東武館で修行された横松勝三郎先生でした（『剣道時代』平成10年4月号参照）。大会参加に私の剣道袴では見るに堪えないので先生が仙台平の袴を貸して下さいたことを覚えております。学外の稽古は東横線東白楽駅近くの消防署の道場を借りて署員の方々と一緒に稽古を指導していただきました。先生はゆとりのある懐の深い稽古をされました。また剣道部活動の区切

りの懇親会時、学生の逸脱した行為には「発すれば節」との教えを受けました。何事も控えめ、程合、道理をわきまえることの大切さを教えていただきました。

学校を卒業した昭和29年凸版印刷(株)に入社、板橋事業本部に配属され電気係に勤務する傍ら、総務部に東京農大OBの川瀬一雄氏がおられ剣道部設立に関わりました。剣道部の活動が開始された頃は、体育館が無く厚生会館の会議場を利用し稽古を行いました。部員も徐々に増えていき、また会社の近くの板橋消防署、志村警察署に時々出かけ稽古をさせていただきました。

外部会社へ出向後、昭和40年凸版印刷(株)板橋事業本部に戻った時、立派な体育館が出来ており、剣道の稽古が出来るようになりました。体育館内武道場には、書画に

優れた当時の山田三郎太社長の揮毫された「唯是精進」の額が掲げられていました。出典については、今は尋ねることも出来ませんが、「精進」については、講談社発行の『日本の武道 修養（禅・儒・養生）』に書かれているところの（仏典の一つ）「遺教経」から採られたものではないかと考えられます。

す。即ち——「汝ら比丘、もし勤めて精進せば、すなはち事難きことなし。この故に汝ら比丘、まさに勤めて精進すべし。たとへば小水常に流るときは、すなはちよく石を穿つが如し」この『遺教経』の教えは、精進ということがいかに大切であるかをわれわれに教えてくれる——と、以上のように記されています。凸版印刷(株)、関連会社退職後は浦和市役所で仕事し、近くに在った埼玉県立武道館で稽古を行い、市川彦太郎先生、小室 進先生、榎崎正彦先生、大久保和政先生他諸先生方には沢山のご指導を受けました。また東京学連剣友会の諸先輩方にも大変お世話になりました。諸々のご教示ご指導に心から感謝申し上げます。

日本の伝統文化でもある剣道を自らも修行しながら青少年の健全育成に微力を尽くしていきたいと考えております。

また95歳まで長寿を保たれ剣道が続けられた風見 敏先生、「生涯剣道三昧」の芳根鋭藏先生を見做って健康に気をつけ剣道の修行を続けていきたいと思っております。

（剣道教士七段・85歳）